

フリースクール等民間施設を利用する 子どもアンケート調査結果

令和7年6月26日（木）

滋賀県子ども若者部子どもの育ち学び支援課

もくじ

調査概要（登録時アンケート）-----	3
調査概要（毎月アンケート）-----	4
調査結果のポイント-----	5

【アンケート調査結果（登録時アンケート）】

1) 居住市町-----	6
2) 学校に登校しづらいと感じ始めた時期-----	6
3) 学校に登校しづらいと感じ始めたきっかけ-----	7
4) 学校に登校しづらいと感じ始めたときの相談相手-----	7
5) 利用している民間施設の情報入手経路-----	8
6) 利用している民間施設を利用したきっかけ-----	8
7) 利用している民間施設を利用して良かったこと-----	9
8) 登校しやすい学校-----	9

【アンケート調査結果（毎月アンケート）】

集計上の注意-----	10
9) 民間施設を利用した日数-----	11
10) 民間施設をすごすなかで良かったこと-----	12
11) 民間施設を利用しなかった日の「昼間」のすごし場所-----	13
12) 民間施設を利用しなかった日の「昼間」のすごし相手-----	14
13) 民間施設を利用しなかった日の「昼間」のすごし方-----	15
14) いやだと感じたこと-----	16
15) 思ったことや感じたこと-----	17

調査概要（登録時アンケート）

目的

滋賀県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍し、フリースクール等民間施設を利用する不登校の状態にある児童生徒を対象としてアンケート調査を実施し、民間施設の利用実態等を把握することで、今後の施策の検討の参考とする。

調査対象者

以下の全てに該当する児童生徒

- 小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍していること。
- 県内市町（大津市除く）の住民であること。
- 令和5年度間または令和6年度に不登校の状態（何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあり、概ね30日以上登校しなかった児童・生徒（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く。）をいう。）であること。
- 滋賀県の調査に誠実に協力いただけること。
- 以下の考え方全てに該当する民間施設を利用していること。
 - 不登校児童生徒に対する相談・指導等を主な事業目的とする学校以外の民間の施設であること。
 - 実施者は事業に関する深い理解と知識・経験や、社会的信望を有すること。
 - 教育への深い理解と、指導についての知識・経験と熱意を有する相談・指導スタッフが配置されていること。
また、相談・指導スタッフは過去に子どもを対象とした性犯罪に関わっていないこと。
 - 学校との間に十分な連携・協力関係が保たれていること。
 - 授業時間（概ね8:30～16:00）に月1日以上開設されていること。

実施期間

令和6年7月1日～令和7年3月15日 登録時に1回

回答数

【調査対象者数】 165名

【回答者数】 136名（回答率：82.4%）

小1	小2	小3	小4	小5	小6
6名	8名	15名	24名	14名	13名
中1	中2	中3			
19名	21名	16名			

実施方法

登録申請時にWEB回答。

調査概要（毎月アンケート）

目的

滋賀県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍し、フリースクール等民間施設を利用する不登校の状態にある児童生徒を対象としてアンケート調査を実施し、民間施設を利用することによる気持ちの変化等を把握することで、今後の施策の検討の参考とする。

調査対象者

以下の全てに該当する児童生徒

- 小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る。）、特別支援学校（小学部、中学部に限る。）に在籍していること。
- 県内市町（大津市除く）の住民であること。
- 令和5年度間または令和6年度に不登校の状態（何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあり、概ね30日以上登校しなかった児童・生徒（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く。）をいう。）であること。
- 滋賀県の調査に誠実に協力いただけること。
- 以下の考え方全てに該当する民間施設を利用していること。
 - 不登校児童生徒に対する相談・指導等を主な事業目的とする学校以外の民間の施設であること。
 - 実施者は事業に関する深い理解と知識・経験や、社会的信望を有すること。
 - 教育への深い理解と、指導についての知識・経験と熱意を有する相談・指導スタッフが配置されていること。
また、相談・指導スタッフは過去に子どもを対象とした性犯罪に関わっていないこと。
 - 学校との間に十分な連携・協力関係が保たれていること。
 - 授業時間（概ね8:30～16:00）に月1日以上開設されていること。

実施期間

令和6年7月1日～令和7年3月15日 月に1回（計12回）

回答数

【調査対象者数】165名 【回答数】各月最大126名（回答率：76.4%）

実施方法

WEB回答。登録されたメールアドレスへ毎月案内と回答期限、アンケートフォームを配信。

調査結果のポイント

学校に登校しづらい、休みたいと感じ始めた時期等について

- 「小学１年生」が４割強で最も多い。
- 学校に登校しづらくなったきっかけは「学校の決まり」「勉強のこと」がそれぞれ４割弱で最も多い。
- 「お父さん・お母さん」に相談した子どもが８割弱で最も多いが、「誰にも相談しなかった」子どもも１割強いる。

フリースクール等民間施設の利用について

- 施設についての情報を「家族から教えてもらった」子どもが８割強で最も多い。
- 施設の利用のきっかけは「楽しそう」が５割で最も多く、次いで「家族にすすめられた」が約４割、「スタッフがやさしそう」「自分のペースですごくせそう」がそれぞれ約３割となっている。
- 施設を利用して良かったことは「友だちができた」が６割弱で最も多く、次いで「スタッフと仲良くなれた」「学校以外に行く場所ができた」がそれぞれ５割強となっている。また、「自分でできることが増えて自信がついた」との回答も約３割みられる。

登校しやすい学校について

- 「決まりやルール、給食、制服などをおしつけられない」が６割弱で最も多く、次いで「しんどいときに休める場所がある」「仲の良い友だちがいる」がそれぞれ５割強、「休み時間の過ごし方を強要されず、自由にすごせる」「話しやすい先生がいる」がそれぞれ５割弱となっている。

毎月の変化について

- 施設の各月の利用頻度は「１～５日」が最も多く、次いで「６～１０日」である一方、「利用しなかった」も一定数みられる。
- 施設を利用しなかった日の昼間は「自分の家」で「お母さん」とすごすことが最も多く、次いで「自分一人」「きょうだい」となっている。また、８月の長期休業中は「きょうだい」「おじいちゃん・おばあちゃん」「友だち」とすごす割合が増えている。
- 施設を利用しなかった日の昼間は「ゲームをしたり、インターネットで動画をみたり」することが最も多い。その他「テレビをみる」「マンガや本を読む」「家で勉強する」などですごしている。
- 子どもがいやだと感じたこととして、４月は「学校に登校しない理由を聞かれること」や「家族からの声かけ」が多いが、夏にかけて少なくなり、８月を境に「いやだと感じたことはない」と回答した子どもが多くなっている。

アンケート調査結果（登録時アンケート）

図1 居住市町

(n=136)

各市町教育委員会が不登校状態と認め、かつ民間施設を利用している子どもがアンケート回答の対象となっている。

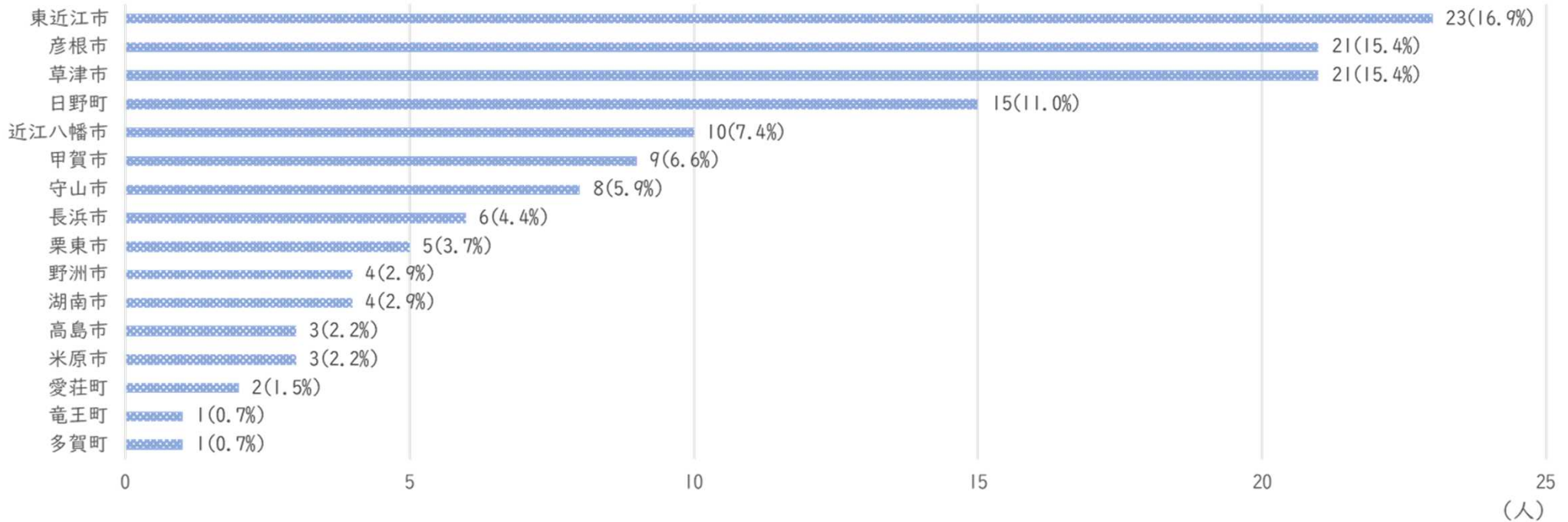


図2 学校に登校しづらい、休みたいと感じ始めた時期

登校しづらい、休みたいと感じ始めたのは、「小学1年生」が4割強で最多。幼児教育・保育からの学習環境の変化が大きく影響していると考えられる。

(n=136)

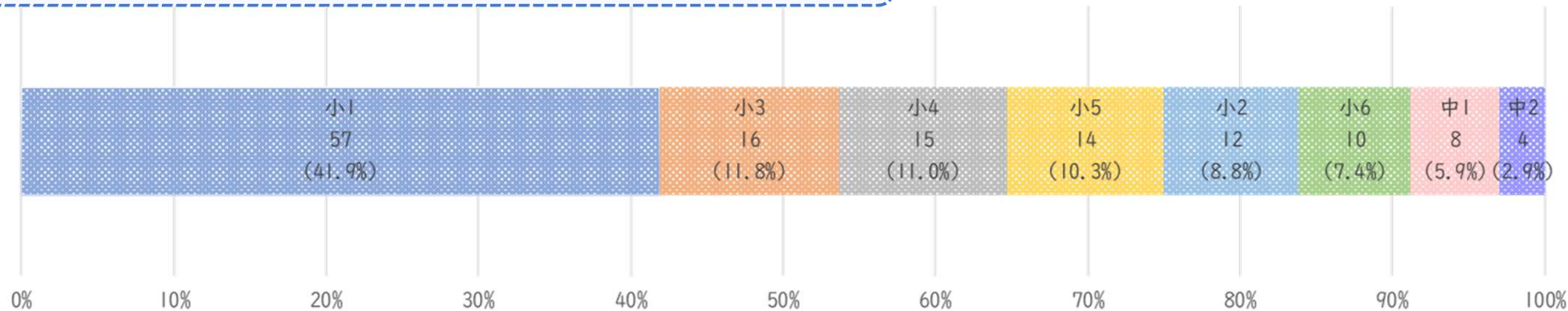


図3 学校に登校しづらい、休みたいと感じ始めたきっかけ（複数回答）

☞ 学校に登校しづらいきっかけとして、「学校の決まりのこと」「勉強のこと」と4割弱が回答。友達や先生などの人間関係よりも、学校での生活や勉強が「休みたい」と感じ始めたきっかけになっていることが多い。一方で「いじめ、いやがらせ」が2割弱となっており、不登校の背景・要因といじめ被害との関連に注意が必要である。

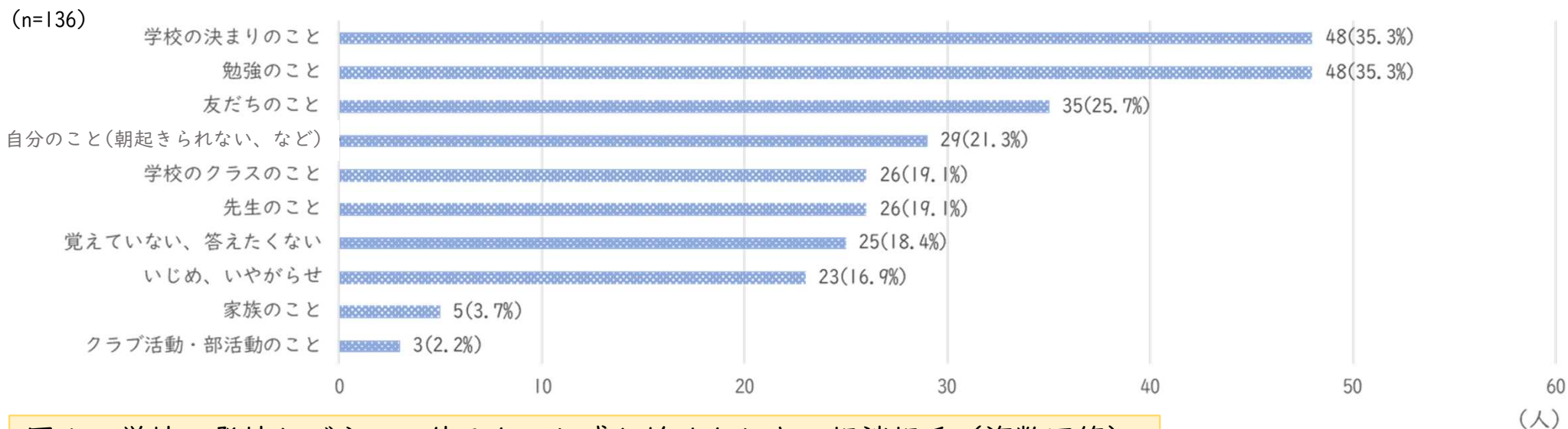


図4 学校に登校しづらい、休みたいと感じ始めたときの相談相手（複数回答）

☞ 8割弱が「お父さん・お母さん」に相談しており、1割強が「だれにも相談しなかった」と回答。担任の先生や担任以外の先生に相談した割合はそれぞれ少数であり、今後子ども自身が学校生活について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへ相談しやすい環境づくりが求められていると考えられる。

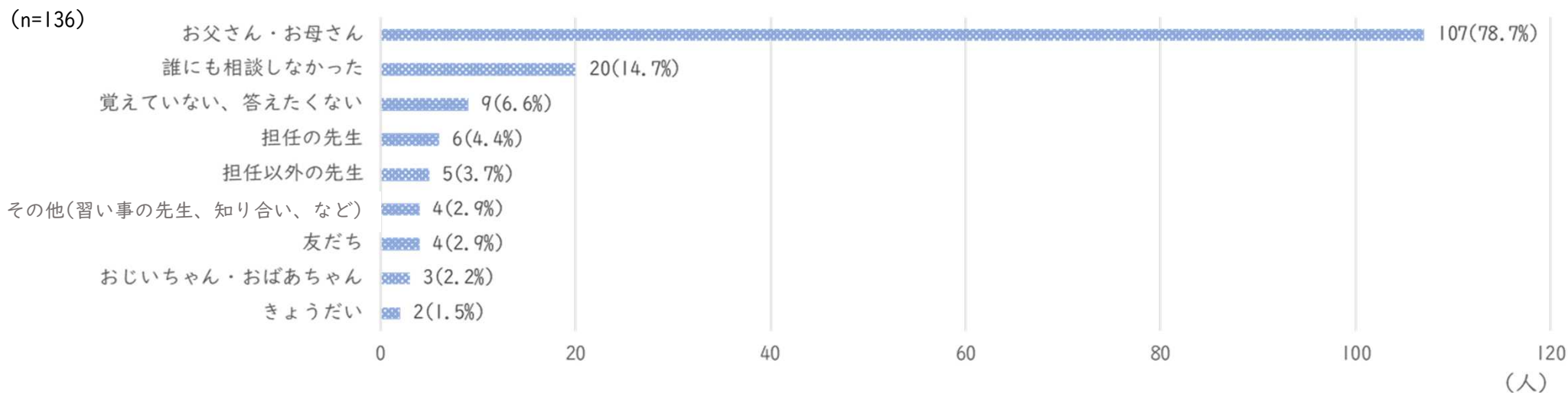


図5 いま利用しているフリースクール等民間施設の情報入手経路（複数回答）

☞ 「家族から教えてもらった」が8割強と多く、家族以外からの情報入手は「近所の人、知り合い、親せきから教えてもらった」「学校から教えてもらった」が1割未満となっており、家族からの情報が圧倒的に多い。学校や学校以外の居場所についての場所や連絡先など、情報が入手しやすい環境づくりが大切である。

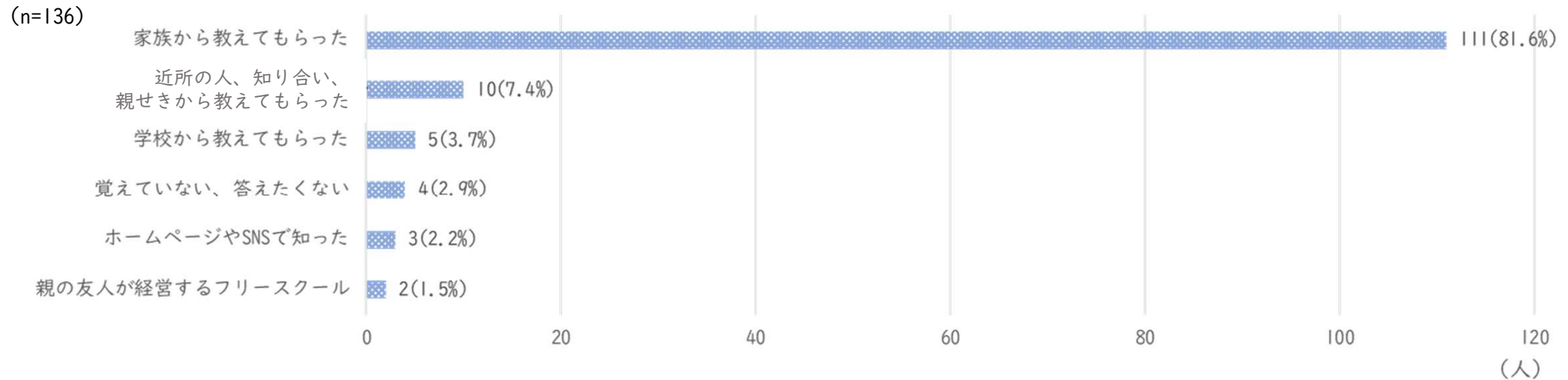


図6 いま利用しているフリースクール等民間施設を利用したきっかけ（複数回答）

☞ 「楽しそう」が5割、「家族にすすめられた」が約4割、「スタッフがやさしそう」「自分のペースですごせそう」が約3割となっている。一方で「勉強を教えてもらえそう」は1割弱となっている。勉強がきっかけの上位ではなく、子ども本人が学校以外で安心してすごせる居場所を求めていることが読み取れる。

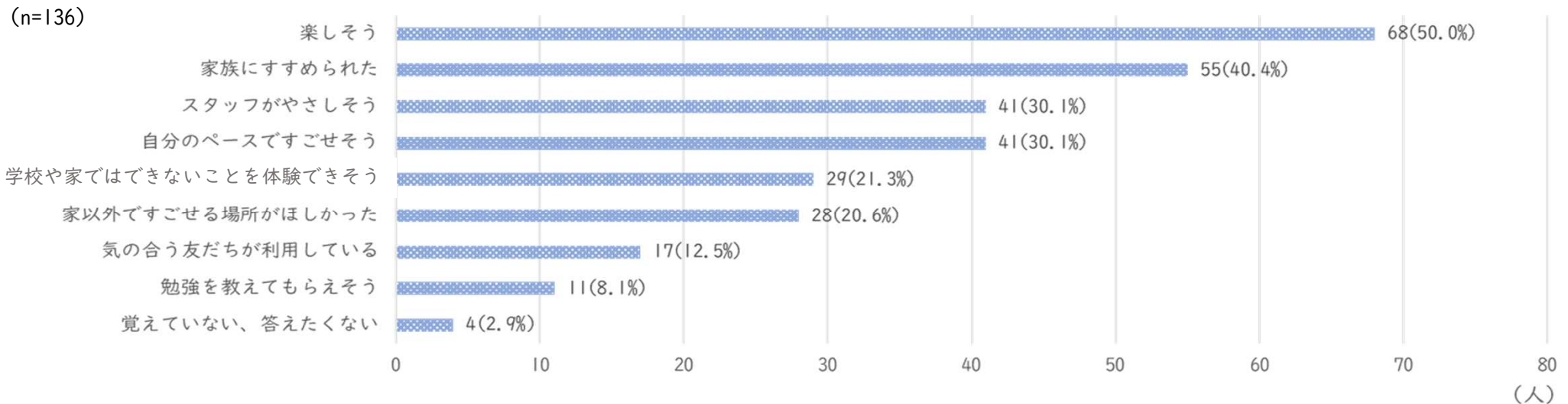


図7 フリースクール等民間施設を利用して良かったこと（複数回答）

「友だちができた」と6割弱、「スタッフと仲良くなれた」「学校以外に行く場所ができた」と5割強が回答。また、「自分でできることが増えて自信がついた」と3割強、「イライラ、モヤモヤすることが減った」と2割強が回答。子ども本人が、フリースクールでの人間関係や経験をとおして、社会とのつながりや自信を取り戻すきっかけになっていることが読み取れる。

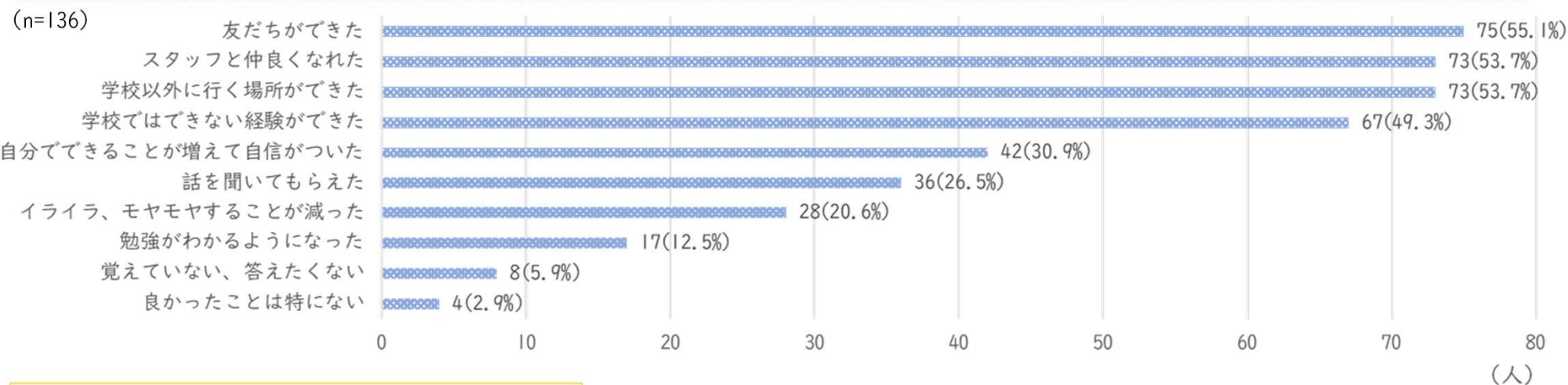
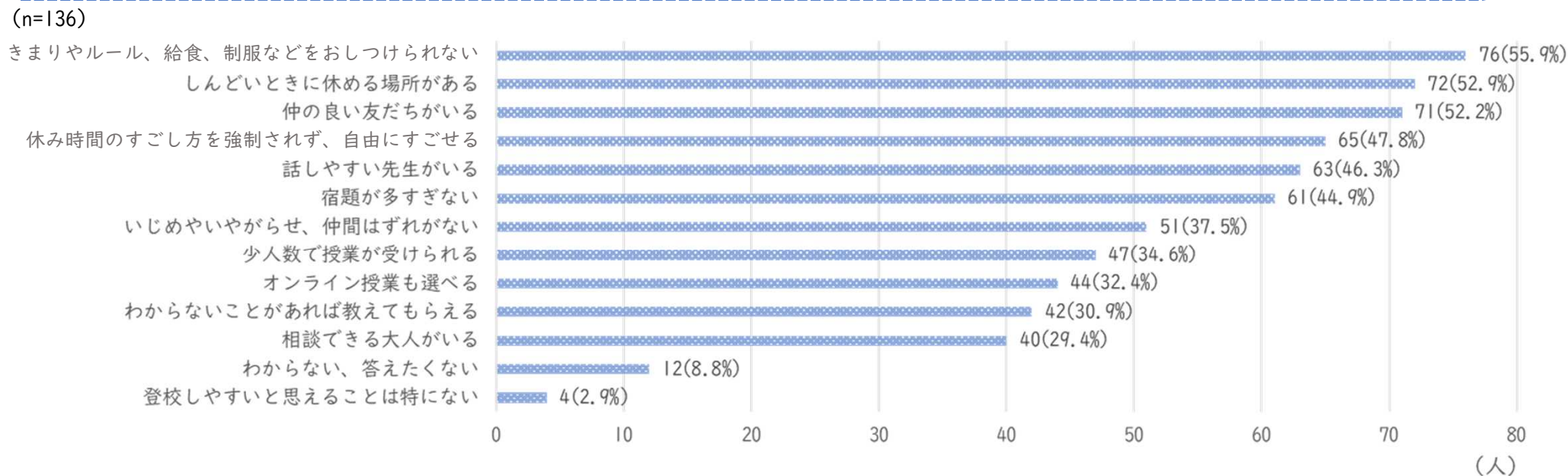


図8 登校しやすい学校（複数回答）

「きまりやルール、給食、制服などをおしつけられない」と6割弱、「しんどいときに休める場所がある」「仲の良い友達がいる」と5割強が回答。



アンケート調査結果（毎月アンケート）

集計上の注意

各月の回答者数

集計には各月で回答があった回答者をすべて用いている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
n	79	80	86	82	97	115	120	123	125	118	126	116

単一回答と複数回答の割合表示についての補足

- ・単一回答項目は各月の合計は100%になる。
- ・複数回答項目は各月の合計は100%を超えることがある。

図9 フリースクール等民間施設を利用した日数

8月「利用しなかった」子どもが多いが、8月以外の全ての月において「1日～5日」が最も多く、続いて「6日～10日」が多いという結果となっている。一方、11日以上利用した子どもは比較的多くない。

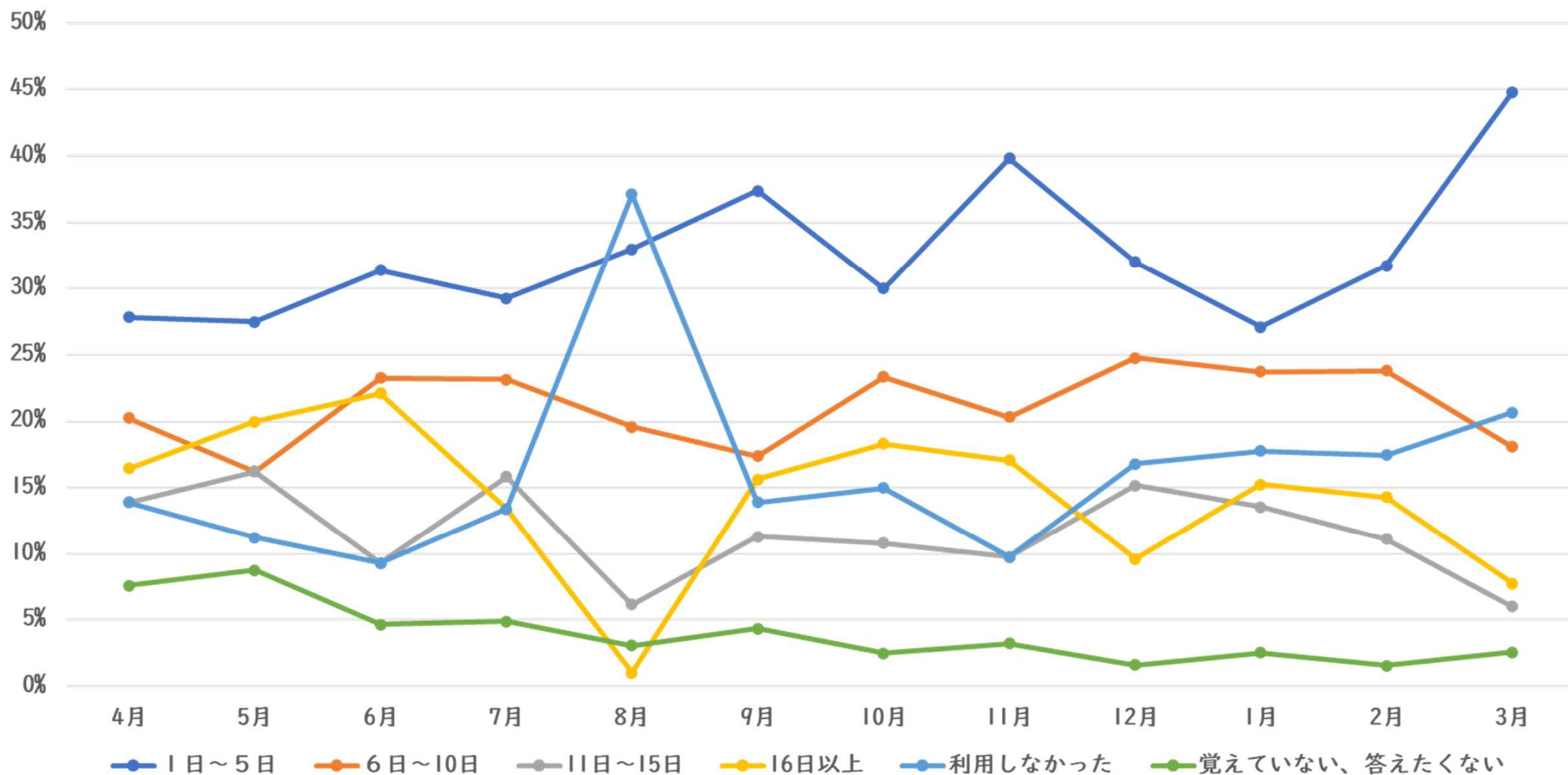


図10 フリースクール等民間施設をすごすなかで良かったこと（複数回答）

☞ 利用する頻度の少ない8月を除いて、「学校や自分の家以外にすごせる場所があったこと」「いろいろな体験ができたこと」「自分のペースで過ごせたこと」「友だちといっしょにすごせたこと」がそのほかの理由に比べると多かった。

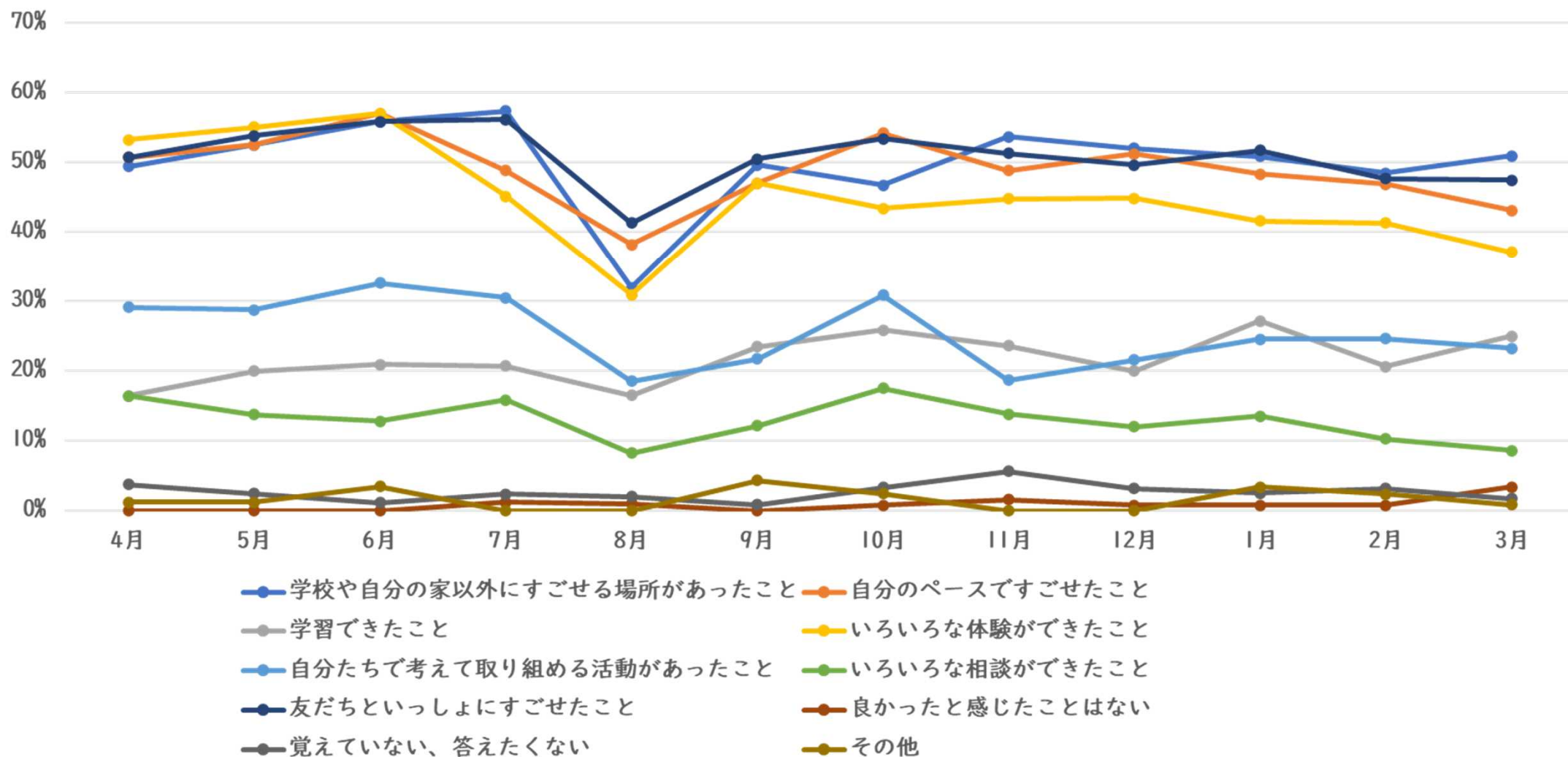


図11 フリースクール等民間施設を利用しなかった日の「昼間」のすごし場所（複数回答）

☞ 子どもたちのほとんどは自分の家で過ごしており、その次が学校であるが、大きく差が開いている。8月の長期休業中は親せきの家で過ごしている子どもが多いことがわかる。

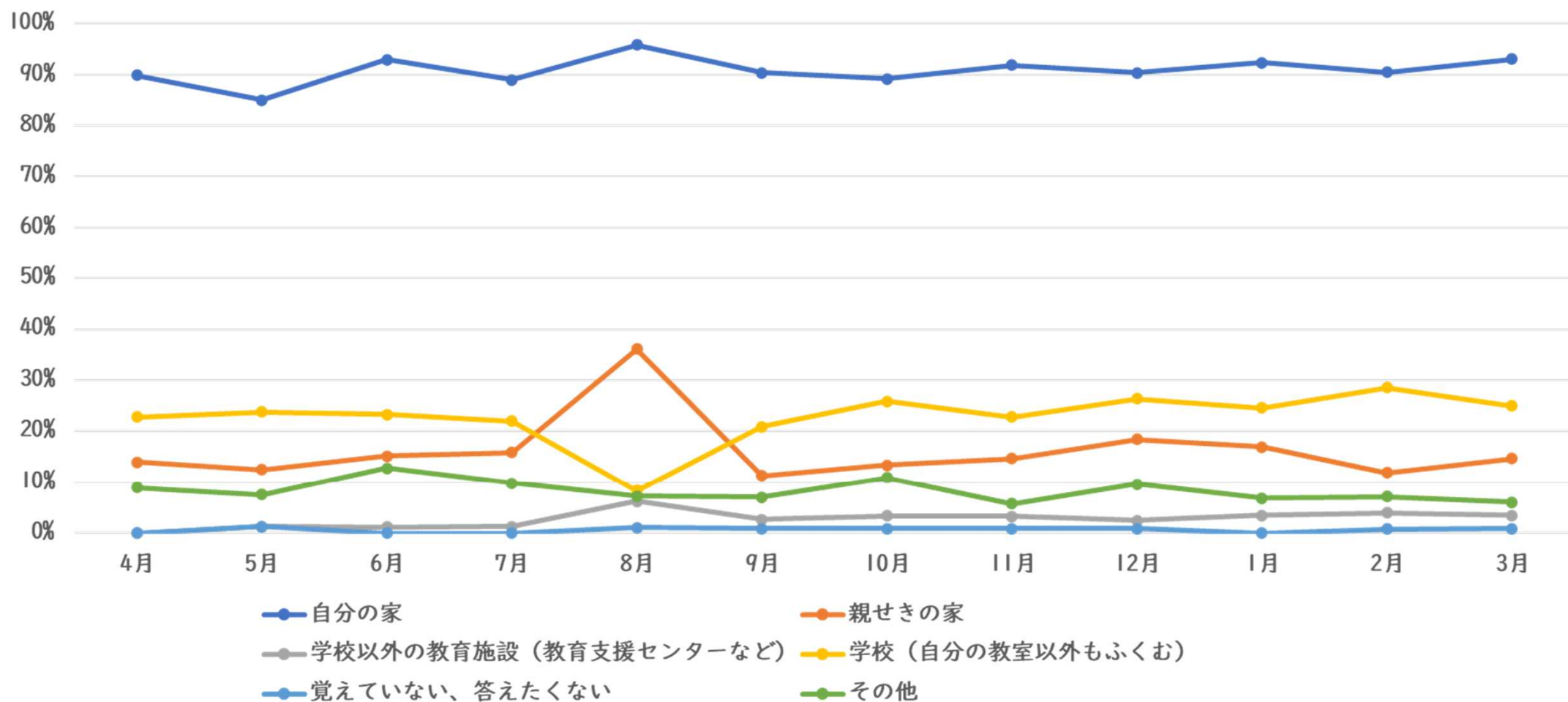


図12 フリースクール等民間施設を利用しなかった日の「昼間」のすごし相手（複数回答）

☞ 子どもたちの多くは「お母さん」と過ごしており、続いて「自分一人」もしくは「きょうだい」となっている。「お父さん」と昼間に一緒に過ごしている子どもは比較的少ない。

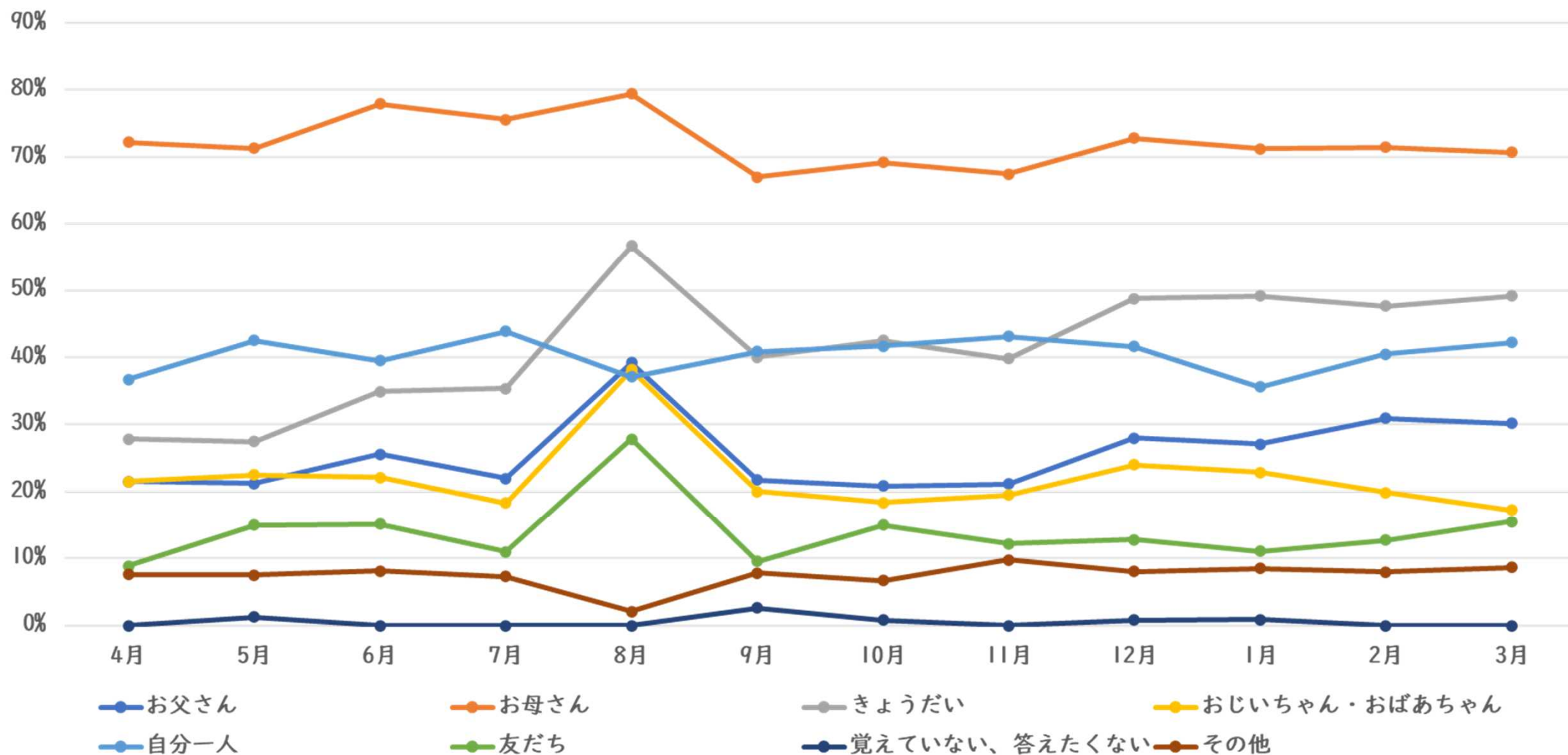


図13 フリースクール等民間施設を利用しなかった日の「昼間」の過ごし方（複数回答）

☞ 子どもたちの多くは「ゲームをしたり、インターネットで動画をみたりしていた」を選択していた。その次に「テレビ」「マンガや本」「外出」である。一方で「家で勉強をしていた」子どもも同程度いることがわかる。

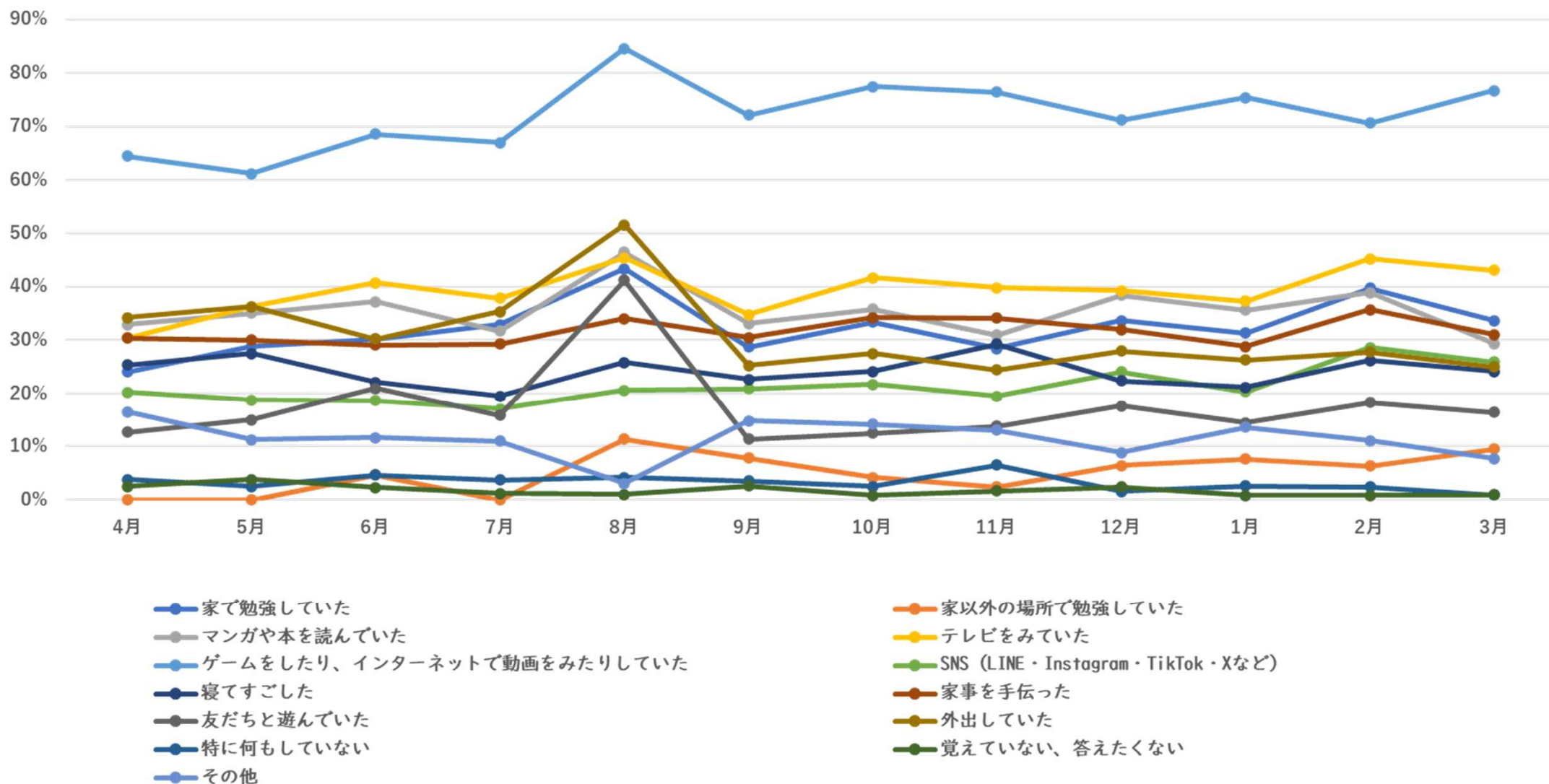


図14 いやだと感じたこと（複数回答）

子どもがいやだと感じたことについて、4月は「学校に登校しない理由を聞かれること」や「家族からの声掛け」が多いが、夏にかけて少なくなっている。また「いやだと感じたことはない」は対照的に、8月を境に多くなっていることがわかる。「フリースクール等民間施設を利用すること」は全体的にどの月でも少なく、自ら望んで利用している子どもが多いことがわかる。

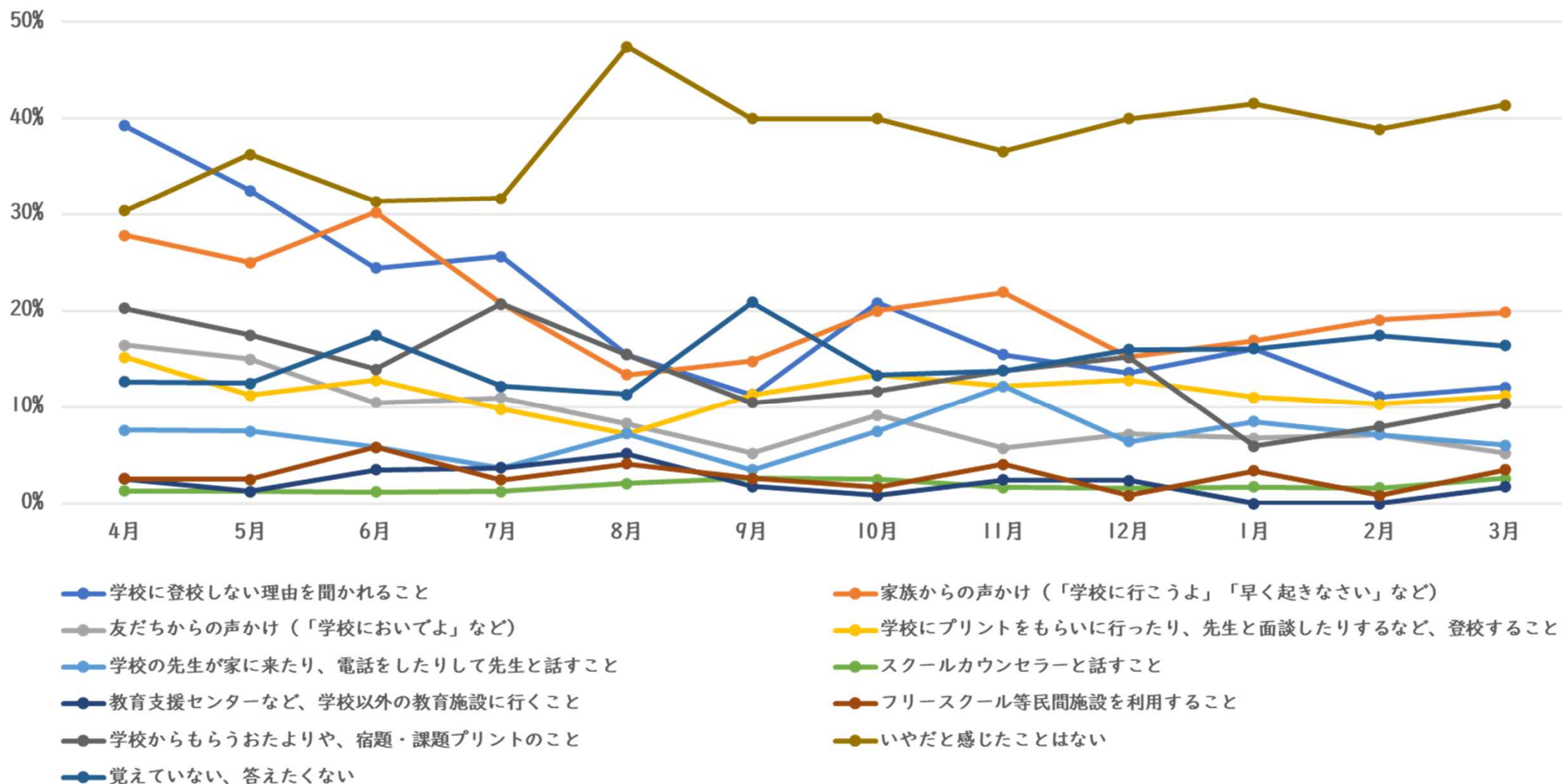


図15 思ったことや感じたことなど（自由回答）

【主な回答】

（4月）

- ・ 担任が安心できる先生でよかった。
- ・ 落ち着かない日が多かった。
- ・ 学校がしんどい、疲れた。
- ・ 久しぶりに学校に行ったら楽しかった。

（5月）

- ・ 学校の先生が家に来たり、電話をしたりして話せて嬉しかった。
- ・ 宿題が大変、頑張りすぎた。
- ・ 学校は頑張る楽しみがあれば行けそう、学校よりフリースクールの方が楽しい。

（6月）

- ・ 担任の先生がフリースクールのことをみんなに分かりやすく話してくれたおかげで学校に行きやすくなった。
- ・ 一人で授業を受けられるようになった。
- ・ フリースクールでいろいろな体験ができて楽しかった。

（7月）

- ・ 水遊び、夏祭りが楽しかった。
- ・ 居場所の活動で友達ができてうれしかった。
- ・ 頑張りたいけど、頑張れない。

（8月）

- ・ ずっと夏休みがいい。
- ・ 夏休みで日中でも人目を気にせず外出できたのがよかった。
- ・ 友だちと会いたい。

（9月）

- ・ 学校に行けることが増えてよかった、楽しかった。
- ・ フリースクールで勉強できてよかった。
- ・ 宿題、勉強が大変。

（10月）

- ・ 運動会、文化祭、修学旅行に行けてよかった。
- ・ フリースクールの祭りやイベントが楽しかった。
- ・ 疲れた。進路どうしよう。

（11月）

- ・ 担任、学校、友だちは嫌いじゃない。勉強が嫌いなだけ。
- ・ 楽しいと思うことが増えた、友だちと遊びたい。
- ・ フリースクール楽しいからもっと行きたい。

（12月）

- ・ 進路を決めないといけない。不安。
- ・ 学校に行くと友だちに会えて嬉しいけど、授業はさせられている感じがして楽しくない。
- ・ 家族以外の人と話せてよかった。

（1月）

- ・ 先生が寄り添ってくれて嬉しかった。
- ・ 頑張って勉強しないといけないと思った。
- ・ 嫌なことがあったけど、お母さんに相談したら、フリースクールのスタッフが助けてくれた。

（2月）

- ・ 雪遊びが楽しかった。
- ・ 定期考査を頑張る。進学したいけど、みんなに追いつけるか不安。
- ・ 学校に頑張っている。

（3月）

- ・ 学校に行けたらいいなと思った。
- ・ 高校に合格した。勉強もやってみたら意外と楽しい。
- ・ 学校の行事を頑張った。楽しかった。